

# 小倉山通信

角館中学校ホームページ [http://www.city.semboku.akita.jp/sc\\_kakuchu/](http://www.city.semboku.akita.jp/sc_kakuchu/)  
 角館中学校ブログ <http://19850424.at.webry.info/>

No.43 通巻87

## ご卒業おめでとうございます

3月に入り、快晴、かと思えば雨、そして再びの雪と日々激しい天気が連続する毎日ですが、第32期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。一般公立高等学校の入学学力検査も終え、仲間と過ごす時間もあとわずか、そして卒業証書授与式を迎えるときとなりました。

入学学力検査を終えた翌日は一人一人の表情が様様でした。実力が発揮できた人、緊張のために余り実力を発揮できなかった人など、その人にしか分からない気持ちが去来したと思います。しかし、まずは受検したのですから、15日の発表を待つ、このことが大事だと思います。

今年の卒業証書授与式には、平素からお世話になっている地域の方々や、学校に直接赴いて私たちに指導くださった方々のご臨席をお願いしました。学校教育は「不易と流行(ふえきとりゅうこう：いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。)」とよく言われますが、よき伝統を重んじて、日々躍進しているのが角館中学校です。そういう意味でも今年は、新生角館中学校創立32年目にあたりますが、歴代校長先生にもご臨席をお願いし、多数のご来賓が卒業生の晴れの舞台、そして在校生の送る気持ちをご覧にお見えになります。是非とも、合唱コンクールのような、全員が一つの気持ちになって卒業証書授与式に臨んでいただければありがたいです。

3年生の保護者の皆様方におかれましては、3年間、角館中学校のためにご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。お子様が卒業なさっても、角館中学校は地域に開放された学校ですので、いつでもどうぞ各校舎内外をご覧に来校いただければありがたいと思っております。今後とも地域の学校として角館中学校をよろしく願い申し上げます。

## 仙北市読書感想文コンクール 角館図書館後援会長賞 受賞

2月26日(日)に、今年度の仙北市読書感想文コンクール入賞者の受賞式が仙北市情報センターでありました。本校からは角館図書館後援会長賞と中学校の部佳作2名が受賞しましたが、当日は所用のために3名とも欠席でした。先頃、入賞作品集が学校に届きました。後援会長賞を受賞した生徒の作品を転載したいと思います。どうぞ、お読みください。

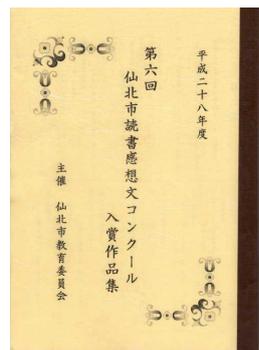
角館図書館後援会長賞（小中学校の部）  
「大切なこと」

角館中学校二年 千葉里桜さん

私はページをめくる手を止め、ふと考えた。もしも自分が障害者でも、こんなに人を気づかえたか、もしも自分の好きな人が障害者でも、こんなに根気強く付き合うことができたか。たくさんの「もしも」が駆け巡ってどれだけ考えても、すべての答えは「できない」だった。

私がこの本と出会ったきっかけは、校長先生のお話だった。校長室がこの本の作者、有川浩先生の本を紹介していたのを思い出し、図書室で探した中で一番興味をひかれたのがこの「レインツリーの国」だ。

この本は、あるライトノベルの感想をきっかけにネットの世界で出会った二人の物語だ。伸はメールのやりとりをきっかけにどんどんひとみにひかれていき、実際に会ってみたいかと提案する。しかし、ひとみはこの提案を受け入れられない「秘密」があったのだ。



私は読んでいくうちにどんどん作品にひきこまれていくのを感じた。特に印象に残っているのは、伸とひとみが初めて実際に会った日の最後の場面だ。重量オーバーのブザーが鳴ったのも気にせず乗っているひとみを、伸がみっともないと怒鳴りつける。そこで初めて重量オーバーだったと知ったひとみが頭を下げると、彼女の耳には補聴器が付いていた。伸もまた、それを見て初めて彼女が聴覚に障害をもつ人だと知った。この時の伸の戸惑いが痛いくらいに伝わってきた。もしかして、さっき言おうとしていたことはこれだったのか、障害のことを知らなかったとしてもこんなに人がいる場所で怒鳴りつけて、みっともないのは自分の方だ。共感できたから、私も罪悪感で押しつぶされそうになっていた。

そして、この後のメールのやり取りからは聴覚障害者と健聴者の「きく」ということ意識の違いを知ることができた。障害の度合いにもよるかもしれないが、ひとみは作中でその違いについてこう言った。

『「聞く」っていうのは、耳から入ってきた

音や言葉を漫然と聞いている状態で、健聴者はみんなこれができるんです。意識しないでも何となく会話ができるんです。『聴く』ってというのは、全身全霊傾けて、しつかりと相手の話を聞くことで、私にはこれしかできないんです。」この言葉を聞いた時、私ははっとした。これまで部活の先生から、担任から、いろんな大人から言われてきた「話をよく聞け。」という言葉が頭をよぎったからだ。この言葉に対して私は「ちゃんと聞いているし」といつも思っていた。でも、大人たちが「話を聴く」という意味で言っていたのなら違う。確かに聞いてはいただろうが、ひとみのように耳を傾けて相手の話を理解しながら聴いてはいなかった。私はずっと、注意を無視し続けていたのだと気付いた。

次に二人が会ったのは、リハビリデートの時だった。この時も最後にハプニングが起こった。ゆっくり歩いていたひとみのことを、後ろから来たカップルが突き飛ばしたのだ。伸はそのカップルを怒ろうと、ひとみが障害者であることを言った。しかし、ひとみは自分が障害者だと人に言わないでほしいと伸に伝えた。ああいう人たちはそんなことを言われたって「障害者うざい」としか思わないから、言っても何も変わらないから、人に言いふらすようなことはしないでほしいとひとみは言った。その言葉が胸に深く刺さった。私たちはいつだって、障害者の人はかわいそうだという偏見を持っているからだ。少しのハンデでも、本人が楽しくやっても、かわいそうだと思う気持ちは消えない。これが逆に障害者の心を暗くしているのかと思った。

少し卑屈っぽくなっていたひとみだったが、伸のある提案で強く明るくなっていった。それは、今まで髪で隠していた補聴器を見えるようにすることだった。私はすごいと思った。髪を切ったひとみの印象はガラリと変わり、補聴器を見えるようにしたため、ひとみは自分から障害者だと主張するようになった。

私たちは障害者に対してかわいそうだと思うと同時に、優しくしなければ、気づかなければという気持ちを持っているはずだ。私はこの本からそう感じた。今、私の周りに障害をもつ人はいないが、これから現れるかもしれない。でも、これから障害を持つ人を見かけたり、電車やバスで乗り合わせたりすることはあるだろう。その時に困っているようだったら助けに行く。後ろの事に気がついていなかったら肩をたたいて教えてあげる。こういうことができる人になっていきたい。人にとって一番大切な「思いやり」の心を忘れない人になる。

読んだ本『レインツリーの国』（新潮社）

## 翠星フラッシュアップ集会

3月3日(金)に2年生の翠星フラッシュアップ集会が開催されました。テーマは「私の特技」です。

○2年A組 村方将太さん

私の特技は二つあります。一つ目は、手が柔らか

いことです。たとえば手をワカメみたいに動かすことができます。(と言って、両手を合わせてくねくねさせました。生徒からの歓声がすごかったです。)二つ目は、恐竜です。皆さんも知っていると思います。皆さんが聞きたい恐竜の声をリクエストしてくれば、その鳴き声をします。(ここでリクエストの恐竜の鳴き声と動きをやりました。)私が恐竜を好きになった理由は動物が好きでその中でも虫類が好きだからだと思います。自分でもよく分かりません。このほかに特技がないのでこれからつくりたいです。

○2年B組 内藤稜太さん

私の特技はすぐに寝ることです。いつも寝ている時にやっていることが二つあります。音楽を聴いて寝ることです。音楽と言っても最近流行った曲ではなく、ちょっと前に流行った曲を聞いてつままないなあと寝ることです。二つ目は風呂上がりにストレッチをすることです。このことにより身体がリラックスすることができ、より眠くなります。皆さんもやってみてください。

○2年C組 渡邊陽平さん

私の特技は、笑点のメンバーの司会をすることです。私は笑点を見ていて、いつか笑点のメンバーになって司会とか座布団運びをしたいと思ってきました。なぜ、笑点を見るようになったかと言えば、何かやっていないかなあと暇な日曜日の夕方にテレビを付けたら笑点をやっていて、それが面白かったからです。笑点メンバーで一番好きなのは三遊亭円楽さんです。理由は毒舌が面白からです。これから大喜利のコーナーをやってみます。(と言って、家来を・・・二人並んで陽平さんが司会になりました。)



司会の笑福亭しょうたです。「皆さんは学校に行きたくない日がありますか？どうぞ。」

A「僕は学校に行きたくない日は、道路が凍っている日とブラッシュアップ集会で面白いことをしてやるぞ、と思う日です。どちらも『すべる』のが嫌だからです。(大拍手!!!)

二問目。「北斗の拳におまえはもう死んでもいい！と何かにつけて言ってみてください。」

B「シャーペンがもうしんで～る」

司会「なぜだ?!」

B「シャーペンは芯が出る(しんで～る)からです。」

司会「笑点はこれで終わります。」どうもありがとうございました。

この後の3名から感想発表がありました。3名とも、「自慢できる特技がないので、家に帰って自分の特技を探したい。」とありました。

集会の最後に、卒業式の歌「旅立ちの日に」を男声と女声に別れて歌いました。清々しい声が2階ホールに響き渡りました。